

SORA

web magazine 2014.aug. vol.38

the Philippines ANILAO

フィリピンでは、セブよりもダイビングの歴史が古いアニラオ。マニラから日帰りができるので、リゾート地というよりは、レストランやスパなど発達してない古き良き田舎にきた感じ。日本人ダイバーにも人気のダイビングエリアとなり、ここ5年ほどで、写真派ダイバーが増えた。そのようなゲストのリクエストに応じるように、現地スタッフも生き物たちを勉強。今回、お世話になったパシフィコアズールは、「ゲストに育てられた感がある」と話す。マニラからの距離、約140km。マニラからリゾートまでの車移動は3時間弱（夜は2時間ほど）と、日本から近い注目のダイビングデスティネーションだ。

Photo & Text :Yasuaki Kagii

MAP
CLICK!

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2014
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.



驚き Surprise

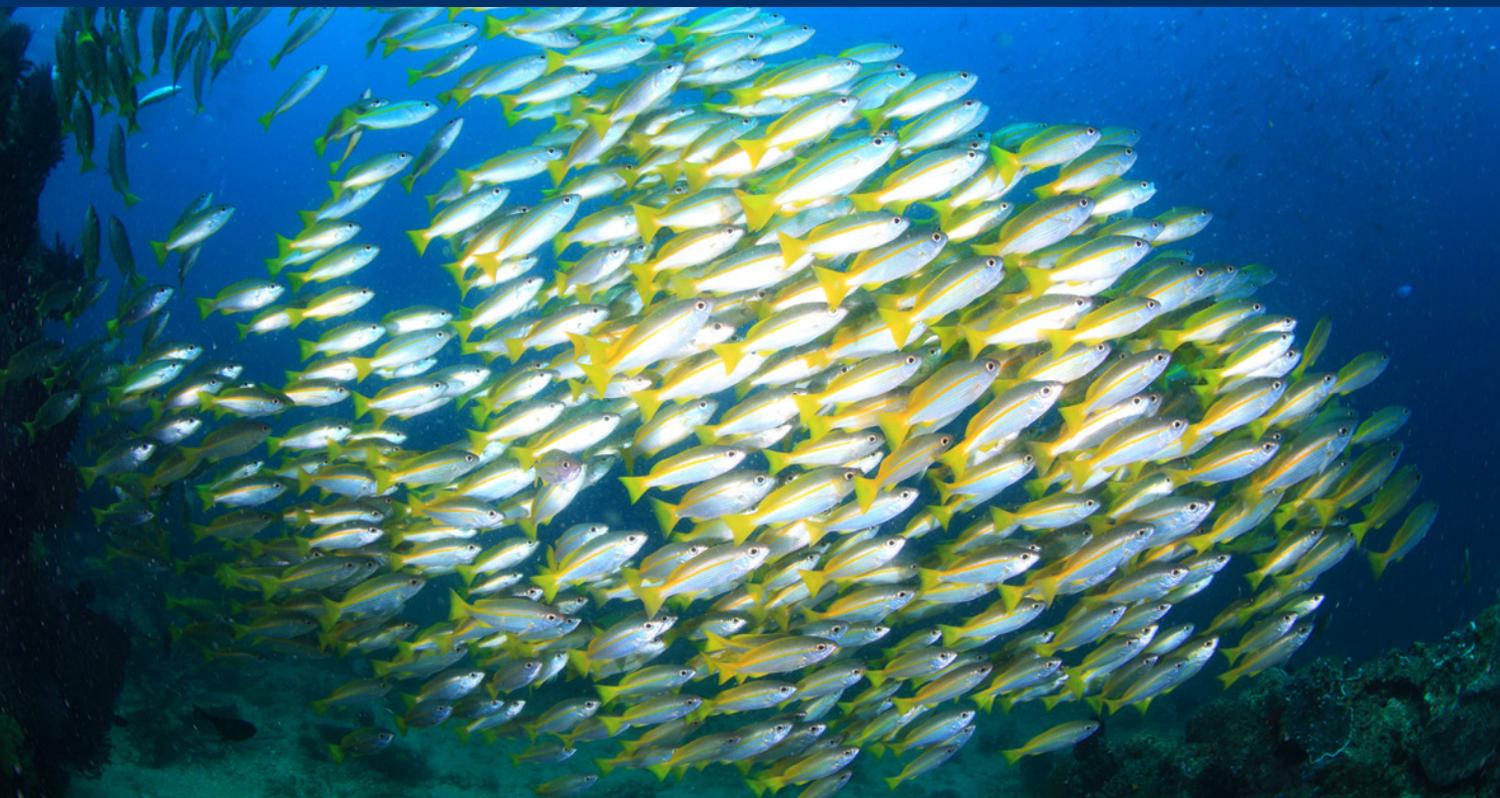
まずは、人気の KIRBY'S ROCK(キルビスロック)にエントリーした。このポイントはアニラオの人気 No.1の深場ポイントで、水面から突き出た岩付近からエントリーして、砂地の傾斜を下っていくポイント。生物がたくさん見られる水深30mほどまで、簡単に到達できる。深い水深から、ハナダイの仲間 (これはちょっと禁断の深度)、スジクロユリハゼ (-32m)、アケボノハゼ、フジイロサンゴアマダイ、フラッシャーの仲間、クダゴンベ、ニシキアナゴなどが見られる。水深15mほどから、オオモンカエルアンコウ、ピグミーシホースやミノウミウシ系が多くなってくる。また隠れキャラとして黄色い小さなナマコがたくさん集まっている (これは他では滅多に見ない光景)。そして水中に大きくそびえ立つ大きな岩の周辺には、何万匹とも思われるキンギョハナダイの群れが泳いでいた。

the Philippines
ANILAO
フィリピン・アニラオ





the Philippines
ANILAO
フィリピン・アニラオ



S 驚き Surprise

ツインロックのギンガメアジの群れも凄かった。このギンガメアジは、基本的に大きな根の上でいつも群れているので、近づいても群れは逃げずに、大接近することができる。私も手の届く距離まで接近して、「私は、ギンガメアジに受け入れて貰った」と心の中でフムフムとっていると、ガイドの大沢さんが「このギンガメアジはみんな寄れるんですよ～」と言…。みんなと仲良くなれるギンガメアジなのです。

驚き
Surprise

the Philippines
ANILAO
フィリピン アニラオ

大沢さんが教えてくれた秘密の花園。潮の流れが少し早いときに根の隙間にお魚たちが群れ、これまでの印象とは、また違ったアニラオの海の素顔に出会えた。

tsumi-shima
ダイバーの眼をうみあげていく



S 驚き Surprise

the Philippines
ANILAO
フィリピン・アニラオ

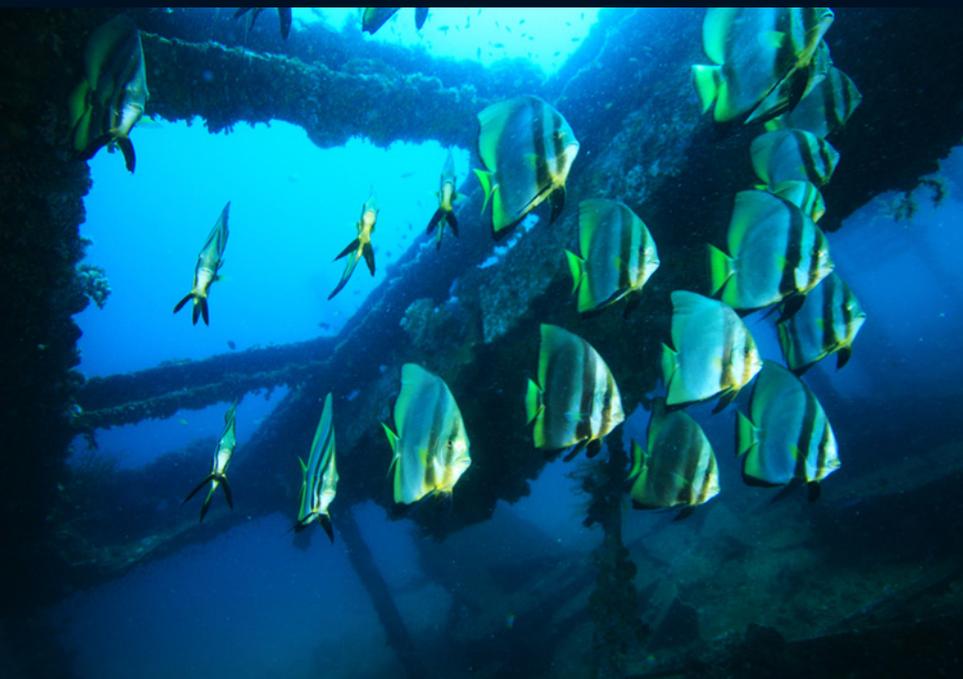
もうひとつワイドの風景、アニラオのダイビングのポイントの中でも少し遠い場所に位置するグロット（約20分）。「鍵井さん、サンゴの群棲がとても美しいんです！」とガイドに誘われて、今回のファーストダイブはこのグロットだった。実は、彼自身も前回の大きな台風で被害に遇ったのではないかと懸念していたそうだが、潜ってみてびっくり。太陽光が届く浅瀬には、所狭しと様々なサンゴが並んでいた。マクロのポイントを潜りながらも、アクセントでこの絶品サンゴポイントも良いのかもしれない。



the Philippines
ANILAO
 フィリピン・アニラオ



日本からのゲストは、中3日のダイビングスケジュールが多い。初めてのゲストは、キルビスロック、ソンプレロ、ダイラアウトと言ったキンギョハナダイの群れなどで華やかかつマクロの生き物も面白いポイントに潜る日と、半島側のツインロック、シークレットベイ、シークレットガーデン、コアラ、カテドラルなどマクロ充実ポイントに潜る日など計画的にうまく潜ることができる。3ダイブ、3ダイブ、2ダイブのスケジュールの3日間で、アニラオの代表的なポイントに潜ることができるのは嬉しい。



そして、DARI LAUT（ダリラウト）は、以前、水上レストランで、その建物が今、漁礁となっている。見られる生き物は、ツバメウオの群れやニチリン、ニシキフウライ、アカメハゼ、ニシキテグリなど。また、ここではあまり見かけることのないヨスジリュウキュウスズメダイを撮影することができた。普通のポイントでも何か見せ物があるところなかなかにくい。





アニラオの海で抜群の人気を誇るのが、SECRET BAY（シークレットベイ）。少し黒っぽい砂地のポイントで、一見すると何もいないように思われるが、実はお宝がざくざくと隠されている。今回もエントリーしてすぐに、3匹のベコタン（アゴヒゲオコゼの一種）が、絡んで遊んでいる（？）のに遭遇した。その後もヘアリーフロッグフィッシュやツノカサゴなどなど。このポイントは、どちらかというと水深10mくらいの浅い深度の方がたくさん生き物が見つ

かる。カエルアンコウやウミウシ各種、ミミックオクトパス、ゴルゴニアンシュリンプ、ハナイカ、イバラダツ、黄色いジョーフィッシュ、などが見られる。1ダイブでは絶対に潜り足りないポイントだ。そして、ココナッツという砂地ポイントでも、ペアで寄り添うミジベニハゼや、また、シルトダイブのアニラオピアでは、ヤツシハゼ、ミミックオクトパス、ブルーバードリボンゴビーなどに会える。と、潜りたいポイントばかりのアニラオの海…。

アニラオの海のシーズナリティー。6～9月半ばの季節は西風（ハバガット）になり、バラヤン（BALAYAN）湾のオープンになっている部分が波の影響を受け易くなる。そのために潜れるエリアが限定されるが、代表的なマクロポイントは台風による大きな影響がない限り潜ることができるので安心。潜れる可能性が低くなるのが、ソンプレロ島の周辺のポイントであるソンプレロ・ベアトリス、沖のポイントのパフラ。アニラオ半島の西側、ちょうどリゾート周辺のカテドラル、コアラ、イーグルポイントは波を受けやすい。

10～12月になると東風（アミハン）に変わり、どこのポイントでも潜れるようになる。実は水温が低くなる、10～12月は26、7度が下がる。年末になると陸上も気温が下がる（と言っても 25℃）。年末くらいで、水温は25～26℃。1月末～2月で24～25度になる。その後、夏に向けて水温は上昇する（5月は29度）。11月は透明度が高くなり、ウミウシがたくさん現れるという、うれしい情報もある。





the Philippines **ANILAO** フィリピン・アニラオ



ダイビングセンター

日本人インストラクターをはじめ、マクロにめっぽう強い現地ガイド陣が集うダイビングセンター。ガイド陣は日本人好みのマクロの生き物を知っているため、常に楽しいダイビングを提供してくれる。またフォト派ダイバーのゲストも多いので、その対応に慣れている。ダイビングスケジュールは午前2本、午後は希望で1、2本、リエストベースでナイトダイビングも可能。ダイブタイムは50分だが、マクロの撮影するゲストの方は、それを超えることも…。その場合は、ガイドにチップを弾んであげてください(笑)。ポイントは約30箇所、良く潜るのは約20箇所。一番近いポイントまで5分、それ以外もおおよそ20分程度で行ける。ダイビングボートは地元のバンカーボートを使用。1グループ、4～5名くらいの少人数でガイドをしてくれる。ホームページに生き物情報などが随時アップされているので要チェックだ。

パシフィコ・アズール・リゾート Pacifico Azul Resort

今回、お世話になったリゾートは、日本人経営のダイバーズリゾート。スタンダードルームはベッド、シャワー、エアコンを完備。デラックスルームには冷蔵庫が付く。スタンダードルームが10部屋、デラックスルームが6部屋、ベランダ付きデラックス2部屋の計18部屋。宿泊施設も様々なタイプがあるので、目的別、予算別を選ぶことができる。敷地内の中央にあるレストラン&バー、レセプションは落ち着いた広いスペース。食事は、フィリピン料理で、buffet方式。肉、魚、野菜料理、ご飯、スープ、デザートなどが用意される。また、レストランは無料の無線LANも完備。

一番の特徴は、ダイバーズリゾートだけあって、ダイバーにとってとても使い勝手が良いということ。まず、ダイビングセンターの前は、寛げる広いスペースがあり、器材洗い場も各器材に細かく分かれ、カメラ専用のスペースも確保。そして、ボートが出る場所もリゾートの目の前なので、ほとんど面倒な移動がない。そして、レストランでは水着のままでも食事を取ることができ、宿泊施設も近いので、忘れものをしてそれほど苦にならない(笑)。

夕方になると、海に沈む夕日にリゾートは色づく。ナイトダイビングに行くもよし、リゾートでビールを飲んで寛ぐのもよし。ダイビングのためだけに毎日楽しく過ごすことができる。

